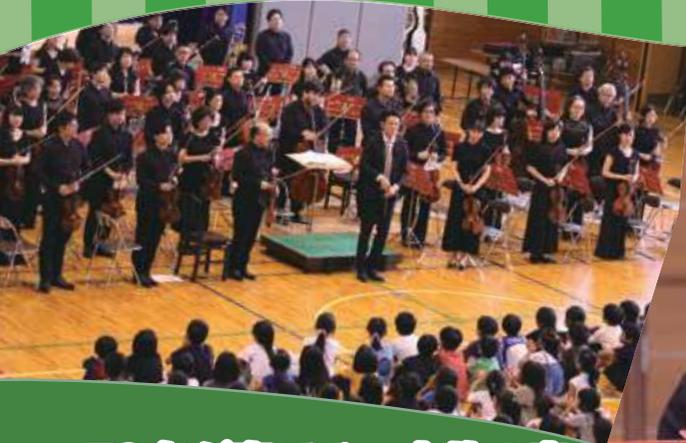


# 緑の風



## 70名が奏でる、本物の音

～東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団がやってきた!～

9月18日(水)5時間目「文化芸術による子供育成総合事業」の一環として、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団のみなさんが、緑が浜小学校へ来てくださいました。6月に5・6年生が参加した事前ワークショップが行われていたこともあり、みんな楽しみにしていた公演です。当日は、70名に及ぶ楽団員のみなさんが、体育館で様々な楽器を演奏してくださいました。「今日は音楽を楽しみましょう!一緒に体験しましょう!」という指揮者の佐々木新平さんの言葉を皮切りに、1時間半の楽しい時間はあっという間に過ぎました。

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団は、1975年に設立。年間100回を超える公演を行いながら、地域コミュニティでの活動も積極的に展開されています。管弦楽団には、弦楽器、木管、金管、打楽器の4つのグループがあります。それぞれの楽器紹介と合わせて、子どもたちの知っている曲の演奏が始まると、みんな思わず歌ったり、手拍子をしたりして盛り上がっていました。不思議な形をした楽器、面白い音を出す楽器、それぞれの音を聞くと、そのすべてが主役であり、それらが集まって一つの音楽になるのだと改めて感じました。

### 指揮者を体験してみよう!

1年、4年、6年生の中から選ばれた、3人のちびっ子指揮者が登場! 70名の奏者の前で指揮を体験しました。指揮者の役割について深く考えたことのない大人も、指揮によって演奏はこんなにも変化するのだ!と感ぜられる、面白く、楽しい体験でした。



スゲー——むずかしかった。



6年 H.Sくん

リズムをとるのがむずかしかったけど、とれたところもあった。



4年 M.Sくん



1年 F.Nさん

むずかしかったけど、楽しかった!

### オーケストラと一緒に歌おう!

事前に練習していた『ピリーヴ』を全学年で熱唱。1年生から6年生までの歌声は、一声一声が音源として重なりあい、深い音色となって体育館に響いていました。保護者の目頭は熱くなり、思わず涙が…。さらに、オーケストラのみなさんとの素晴らしい『緑の子』(創立15周年記念に作られました)も熱唱。心なしか子どもたちの歌声も優しく、温かく聞こえます。このCDは学校へもプレゼントしてくださいました。保護者の方も聞ける日があるといいですね。



「文化芸術による子供育成総合事業」は、学校からの応募により得られている貴重な体験授業です。緑小の子どもたちは、こんな機会があり幸せだな…と改めて感じた時間でした。次の機会があれば今回鑑賞できなかった保護者のみなさんも、次回是非子どもたちと一緒に本物を体験してみたいかでしょうか?



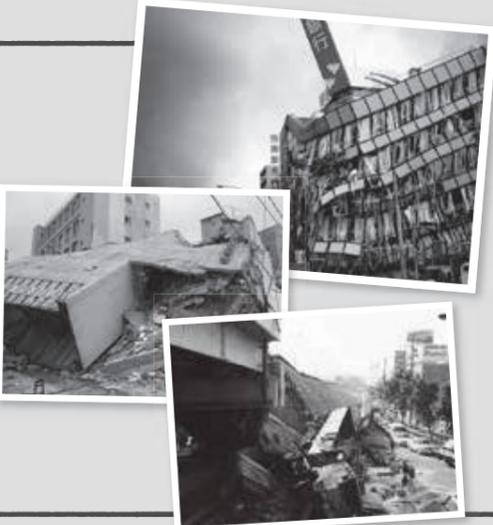
元P.G.T.副会長 郷古俊彦さん

# P.G.T.茶話会

## 天災は待ってくれない!

いつかくる、それは明日かもしれない

元号が平成から令和に変わった2019年。集中豪雨や相次ぐ大型台風など、これまで経験した事のないような災害が次々と日本列島を襲いました。東日本各地に甚大な被害をもたらした台風19号は、上陸する数日前から「史上最大」という見出しで各メディアが報じました。スーパーやドラッグストア、ホームセンターは、備蓄品を求める人々でごった返し、水や食料、ブルーシート、養生テープなどが消えるという事態も発生しました。みなさんはそのような状況で、何を考え、どう対処されたでしょうか。9月20日(金)P.G.T.主催で開催された茶話会では、2013年(平成25年)から2017年(平成29年)の4年間 P.G.T.副会長を務められた郷古俊彦さんが、ご自身の阪神・淡路大震災の貴重な被災体験と、その経験に基づく防災や危機管理について語って下さいました。



### 阪神・淡路大震災の恐ろしい体験談

1995年(平成7年)1月17日午前5時46分、阪神・淡路大震災が起きました。当時銀行にお勤めで単身赴任中の郷古さんが住んでいた兵庫県芦屋市では、マグニチュード7.3震度7の大地震でした。前日には小雪がちらついていたとも寒くまだ暗い夜明け前、突然の強い揺れが郷古さんを襲いました。

初めは縦揺れ続いて横揺れと、それまで体験したことのない激しい揺れや、ドシンドシンという凄まじいごつ音に、不安と恐怖を感じながら掛け布団を頭からかぶり、揺れが収まるまで成す術がなかったといいます。後にごう音の正体は、自宅から300〜400m離れたところにある阪神高速道路が倒壊する音だったと判明。自らの目で確認したときのことを郷古さんは「体が固まった」と表現されています。「日本の技術をもってすれば震度6以上が来ても絶対に高速道路は壊れない」という安全神話が、文字通り崩壊した瞬間でした。

### 怖い事実のお話

阪神・淡路大震災の死者は6,434人でその殆どが建物倒壊による圧死、東日本大震災の死者・行方不明者(2019年8月27日時点)は20,202人で主な死因は津波によるものでした。30年以内に70〜80%の確率で発生するといわれている\*南海トラフ地震では、最悪の場合、死者32万人以上、

### 郷古さんが伝えたいこと

その後、単身赴任を終えて茅ヶ崎へ戻り、東日本大震災も体験されたご自身の経験から伝えていきたいことを伺いました。「天災は待ってくれません。突然襲い掛かってくる。どうかみなさん、できることから徐々にでも準備をしてください。」

### 当時の被害状況

震災後、ライフラインは完全に停止。電話の不通は30万回線を超え、復旧までに電気は1週間程度、ガスや水道は2〜3ヶ月を要しました。携帯電話の普及していない時代で、KDDI神戸支店の前には50〜60台の電話機が設置され、自身の無事を知らせたい人々が長蛇の列を作っていたそうです。病院の診療も停止し、トイレの使用、コンビニ、薬局、ごも長蛇の列でしたが、「そのような逼迫した状況の中でも順番を守り列をなす日本人のマナーの良さに感動を覚えた」と振り返る郷古さん。

### CHECK! 地震時における行動のポイント

- ✓ グラツキきたら火の始末
- ✓ テーブルなどの下に入り身を伏せよ
- ✓ 戸を開けて、まず出入り口を確保せよ
- ✓ あわてて外に飛び出すな
- ✓ 我が家の安全、隣の安全も、互いに声をかけ合おう
- ✓ 火が出たら素早く消火
- ✓ 門や扉には近寄るな
- ✓ 室内のガラスの破片に気をつけよ
- ✓ 協力し合って応急救護
- ✓ 正しい情報に耳をかせ

### 日頃の備え

- 1 家や家の中の安全とチェック**  
家屋耐震性チェック(筋交い等)、家具の転倒防止
- 2 持ち出し袋や備蓄品を用意**  
バッグ、水(飲料水)、食(携帯食、非常食)、装備(ヘルメット、頭巾、手袋、運動靴)、道具(万能ナイフ、ロープ)、情報(携帯ラジオ、連絡メモ、身分証明書コピー、筆記用具、現金)、救急(救急用品、持病薬、常備薬)、衛生(マスク、簡易トイレ、トイレトイレットペーパー)、汎用(タオル、ポリ袋、サランラップ、ビニールシート、新聞紙、段ボール)
- 3 家族と避難場所や連絡方法を確認**  
避難場所を決めておく、災害用伝言ダイヤル(171)、災害用伝言板(WEB171)・携帯版災害用伝言板(各携帯会社が個別で提供しているものもあります)

被害規模は東日本大震災のおよそ17倍と想定されています。(内閣府、警視庁調査による) どうぞ郷古さんの貴重なお話と忠告に耳を傾け、大切な家族・子どもたちを守るための備えをしてください。

\*南海トラフとは、駿河湾から遠州灘・紀伊半島南側海域土佐湾・日向灘沖が接する海底地形を形成する地域。南海トラフ地震は、概ね100〜150年間で繰り返して発生しており、前回の南海トラフ地震が発生してから70年以上が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生が切迫性が高まっています。

# ランドセル大調査!

アンケート結果報告 vol.2

前号だけでは掲載しきれなかったランドセル大調査。今号では、さらに掘り下げてご報告いたします。

### 置き勉の種類は学年ごとにどうなっているの?

先生方にもご協力いただき、何を置き勉として許可しているかをアンケートしました。学年で置き勉の種類が統一されているのは、4年生〜6年生。高学年ほど置き勉ができる数も増えていました。1年生〜3年生は、クラスの状況に応じて、持ち帰りが必要なものと置き勉ができるものを分けている様でした。低学年ほど持ち帰る教材が多い理由として、**①自分で支度する習慣をつける ②お家の人にもどんな教科書なのかを見てもらいたい** などがありません。一方で、2年生の計算ドリルや漢字ドリルを置き勉許可にした理由として、忘れ物が多く、授業ができないことがあるのでということでした。先生方の思いが、アンケートから垣間見ることができました。

### 重さはどれくらい?

それでは実際、どれくらいの重さを普段背負っているのか、1年生の男の子(体重20kg、K.Tくん)と3年生の女の子(体重23kg、T.Mさん)に協力してもらって、重さを測ってみました!

荷物別の重さ比較	1年男子(K.Tくん)	3年女子(T.Mさん)
ランドセル	1.14kg	1.1kg
ランドセル+水筒+教科書が一番多い日	5.55kg	5.9kg
ランドセル+水筒+教科書+体操服+上履き <small>金曜日</small>	4.75kg	6.57kg

アメリカの小児科学会によると、「バックパックの重さは体重の**10%〜20%**を決して超えないこと」としているそうです。この基準だと2人の場合、「K.Tくんは**2〜4kg**、T.Mさんは**2.3〜4.6kg**を超えないことが望ましい」と分かりました。

### 重たいのはランドセル?それとも教科書?

インターネットで調べてみると、30年前と今とでは、大きさは今の方が大きくなったものの、軽量化の努力によって重さには大した差がないことが分かりました。軽い素材で1.1kg、重くて1.5kgです。では中身はどうでしょう。2008年の学習指導要領改訂により、脱ゆとり教育をスローガンにした学習方法に変わりました。その結果、教科書の厚みが増したそうです。



なんと**2,728**ページ(約3割)も増えたという結果でした。これはかなりの差なのではないかと思えます。

昨年の9月6日に、文科省は通学時の持ち物負担の軽減に向け、児童の携行品の重さや量について適切な配慮を求める通知を、全国の教育委員会に出しました。判断は各学校に委ねられるという通知ですが、柔軟な対応が求められる時代となりました。特に低学年の子どもにとっては大きな負担となるランドセル事情。置き勉を工夫したり、リュックに切り替えたりして、過度な負担がかからないようになると良いですね。

### 使用後のランドセルの使い道は?

アンケートで一番多かったのが「使い終わったらどうしたらいいかわからない」という回答でした。最後に使用後のランドセルに、どのような使い道があるかをご紹介します。

- 寄付する** 茅ヶ崎ランドセルプロジェクトでは、毎年5月の湘南祭で、使わなくなったランドセルの寄付を募っています。集まったランドセルは、ウガンダの子どもたちに送られます。(鍵盤ハーモニカやリコーダー等も回収)
- リメイクする** 写真立てや、小さなランドセルにリメイクできます。
- リサイクルする** お近くのリサイクルショップで引き取ってもらえます。

以上、ランドセル大調査はいかがでしたか? 何かの参考にになれば幸いです。皆さま、アンケートのご協力ありがとうございました!

# この日のためにがんばりました!! ~運動会練習現場・侵入ルポ~

11月2日(土)、第19回「緑小運動会」が開催されました。今年も子どもたち一人一人のがんばりを見ることができました。最後の得点発表では、わずかに2点差で赤組が逆転勝利するというドラマチックな結末となり、子どもたちだけでなく、保護者のみなさんも胸が、そして目頭が熱くなる運動会だったのではないのでしょうか? 夏休み明けから子どもたち、そして先生方は、この日のために日々練習に励みます。100%の力では満足することなく、120%の力を出し切るために、一生懸命毎日の練習を頑張りました。今年、そんな練習の様子をお伝えします!

## 今年のスローガン “友勝団緑”

### 1年生

- ・うたえ!パブリカ
- ・おどれ!玉入れ

運動会まで2週間と迫った10月某日、1年生は“うたえ!パブリカ”の練習。左右を揃えて!元気よく!と、熱のこもった先生の指導に懸命に応じる子どもたち。準備は万端。初めての運動会を目一杯楽しんでね。



練習開始。先生の指導に熱心に耳を傾ける。

大好きなパブリカダンス、楽しくて思わず笑顔がこぼれます。

イントロが流れ、ノリノリでジャンプをし始める。

指先までしっかり伸ばして最後の決めポーズ!

今日の課題は振りを揃える事。先生の掛け声に合わせて右!左!

9月末から始まった練習では、時に先生の厳しい喝が入りつつも、食らいつくように頑張っていました。競技のボール運びの練習では落としてばかり。一体どうなるのやら?と思ったのもなんのその。本番では素晴らしい出来栄でした!



体育館での最後の練習。

隊形移動の説明を真剣に聞いています。

広い校庭では立ち位置の目印を決めないといけません。

みんなヒゲをつけてフレディに変身。

どうやったらボールを落とさずに運べるか?を再確認。

### 2年生

- ・みんなで QUEEN
- ・みんなでボール運び



練習でも手加減なしの全力投球

ひとつひとつの動きを何度も繰り返し練習

いい音が鳴るように、ていねいにテープを貼ります

本番が迫り、見せ場のポーズや立ち位置を確認

練習では道具の準備も自分たちで

### 係の仕事も頑張りました!

4年生以上は、いろいろな係のお仕事があります。競技や、演技だけでなく、係でもたくさんの準備、そして本番でもたくさん頑張りました!



## モザイク壁画コンクール



6-1 大沢優季さん

6-1 岩澤藍さん

6-1 小林杏海さん (上、下段共)

緑小運動会の伝統。モザイク壁画。夏休み明けに、立候補した子たちの絵が集まり、全校生による投票で決定されます。惜しくも壁画にはならなかったけれど、どの絵もとても素晴らしいものばかりでした!

組立体操 初心者です。校長先生、教頭先生も見守ります。

人間おこし、タイミングむずかしい!!

### 4年生

- ・Flag 4mphony
- ・くるくる〜ん タイフーン

秋休み前から練習をしていたフラッグシンフォニーも、10月半ばには校庭で黄色と水色の旗が空間いっぱいに操られ、音楽に合わせて振られる旗は見事にそろってきました。「4年生は、かわいいからカッコいいになろう!」という目標を見事にやり遂げた演技でした。

本番さながら、校庭で音楽に合わせての練習。地面に印なんて書かかないです。



体育館で振りの確認。ステージの先生の動きと音楽を聴きながら進めていきます。

カッコいい姿を見せる時が来ました。みんなで気合注入!

折り返し!役割が違う3人、息を合わせてくるんと。

みんな、行くよー!跳ねてー!一番ドキドキの瞬間。

### 5年生

- ・緑小ソーラン〜波〜
- ・あの旗をつかめ

風神雷神の繊細なデザインに真剣な様子。運動会が近づくにつれて、私語が減っていきました。練習では筋肉痛で辛そうにしながらも、当日は「超全力でがんばるぞー!!」のかけ声から始まり、キレのある動きでバッチリ!



教頭先生も衣装作りのお手伝い。

下書き、色塗りをていねいに根気強く繰り返していきます。

しっかりなぞらないと下絵がはつきり出ません。

時間差で見せる動きは何度も繰り返して感覚で覚えていきます。

大きな旗をそろえて振るのは意外と難しい。

### 6年生

- ・組立体操〜結〜
- ・騎馬戦〜緑が浜秋の陣〜



砂だらけ。でもそろってきたでしょ!

1,2,3 ハイッ!

組立体操 結

本物にふれよう講座

マジックと音楽と絵本のコンサート

11月14日(木)

緑が浜小学校区青少年育成推進協議会主催で、ミュージシャン&マジシャンの大友剛さんをお招きして、マジックと音楽と絵本のコンサートが行われました。

大友さんが来校されるのは、昨年に続き2度目！2年生～6年生の子どもたちはほぼ全員覚えていて、まるでアイドルのコンサート並に盛り上がりました。



最初のマジックタイムでは、紙袋に入っていたはずのコーラが消えたり、高津先生が選んだカードが白い布に現れたり、次々に繰り広げられるマジックに子どもたちは釘付け！途中、激しいツッコミを入れる子どもたちに大友さんもタジタジでした。絵本タイムでは、みんなが大好きな「ねこのピート」でお馴染みのメロディ「かーなーりーさいこう♪」が大合唱となり、体育館に歌声が響き渡りました。最後の音楽タイムでは、「人間ジュークボックス」が登場！子どもたちからのリクエストに即興でピアノを弾くというもの。1年生からのリクエスト「パブリカ」では、なんと1年生全員が曲に合わせて踊りだすという素敵な光景が繰り広げられ、これには大友さんも大感激。また「翼をください」では、1年生が6年生に歌ってほしくてリクエストしました。6年生が歌い出し、それを1年生が6年生の方に向きを変えて全員で聞き入るといふ姿も見られ、見ていた保護者が思わず涙を拭う姿もありました。

子どもたちの「アンコール！アンコール！」という熱いリクエストに応えてくださった大友さん。最後は「にじ」「世界中の子どもたちが」の曲で締めくくりました。

子どもたちの感想

「パブリカを1年生が踊っている姿を見て、楽しそうだなと思った。マジックもすごかった。」 2年生、W.Iくん

「ピアノとピアノを同時に弾いていたのがすごいと思った。」 3年生、S.Kくん

「おじいちゃんの手遊びが面白かったのと、世界に一つだけの花の演奏が良かった。」 6年生、K.Sさん

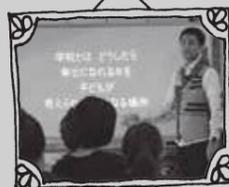
大人も笑顔になるトーク&ライブ

本物にふれよう講座の午後の部では、P.G.T.主催による「大人のための音楽とトークショー」が開かれました。1時間という限られた時間の中、『子どもの幸せとは』というテーマのもと、前半はご自身の子ども時代から、今のお仕事や活動に至るまでの経緯などをお話しされました。辛かった子ども時代にマジックと音楽と絵本に支えられたという経験から、今の子どもたちにも少しでも心のよりどころになればと、日々活動をされているそうです。コンサートや講演活動の傍ら、自由教育を実施している学校で非常勤講師もされている大友さん。現代の日本社会、教育、子どもたちに対する思いも語っていただきました。「学校とは何か？」「義務教育とは教育を受ける義務ではなく、子どもに合った教育を提供する義務である」「障害は人にあるのではなく社会にある」「大人が生きづらければ子どもはもっと生きづらい」「学校とは、どうしたら幸せになれるかを、子どもが考え

られるようになる場所」。私たち大人が子どもたちのために何ができるのか、深く考えさせられる貴重なお話でした。

後半は午前同様、「人間ジュークボックス」のコーナーに。世代や邦楽・洋楽問わず、どんな曲でも即興で素晴らしい演奏で応えてくださり、うっとりとしちゃいます。そしてなんと、参加者からのリクエストで、大人たちが代わる代わるピアノの下に潜り演奏を聴くという流れに！大友さんからも「こんな大人たち初めてです。(笑)」という言葉が出るほど、自由で楽しく今までにないライブショーとなりました。

子どもたちが自然に歌ったり踊ったり、大人たちも童心にかえり、体中で喜びを表現する姿を引き出してくださいました。素敵な時間をありがとうございました！



パパボラのみなさんのトレードマークは、黄緑色の「力こぶTシャツ」。今年は過去最高の26人のパパさんたちが登録してくださいました。今年度より代表の大西さんは、パパボラ歴4年目。活動について語っていただきました。

緑小のえんの下の力持ち！

パパボラ



今年度からパパボラの代表を務めさせていただいています大西です。パパさんたちって、普段子どもたちの通っている学校に行く機会はなかなか無いんですよね。パパボラの活動は数少ない「パパさんたちの登校日」みたいなでなかなか楽しい1日です！2年目となる「力こぶTシャツ」も制服という感じですか。(笑)パパボラの一歩のイベントは夏祭りの「流しそつめん」。毎年、ご好意でいただいている竹を前日にみんでバカッと割ります。(これがなかなか難しい！)DIY精神のもと、節を取ったり、穴を開けて固定したりと大奮闘。夏祭りの当日は慣れたもので、「茹でる」「運ぶ」「並んでらうってつゆを渡す」「そつめんを流す」がとてスムーズに！子どもたちも「待っていました！」とたくさん食べてくれて大満足。



役員さんのホンネは？ P.G.T.本部覆面座談会

みんな最初は戸惑いました！

忙しい、大変そう、難しそう…。とかくネガティブに捉えられがちなP.G.T.本部のお仕事。役員さんたちの頑張りには頭が下がるし、もちろん感謝はしているものの、できれば自分は遠慮したいと思っている保護者の方も多いいのでは。でも、忙しくて大変なはずのP.G.T.役員さんは、皆さんイキイキしててなんだかとても楽しそう。そこで、P.G.T.本部役員の方々に「で、本当のところどうなの？」的な本音をざっくばらんに語り合っていました。



どんな経緯で役員になりましたか？



指名委員会から電話がかかってきた時はびっくりしましたが、どなたもいなければということでお引き受けしました。長男に「それはちゃんとしたお母さんがやることだよ」と言われました。(笑) KZさん



私たちは旧P.G.T.の役員さんから声を掛けられて「一緒にやろう」ということになりました。何の情報もなく、知っている人が誰もいないのは不安なので、これからやってもいいと思う方はお友だち同士で誘い合って参加するのでもいいと思います。 Sさん & Mさん



私は学校が好きで子どもの様子が見たかったので、色々なボランティアに登録していたら、声を掛けられました。 ITさん

正直、引き受けてみてどうですか？

自分の役目以外にも(ボランティアや行事など)やることは多いです。でもそれをカバーできるぐらい役員メンバーと会って話するのが楽しいです。 KBさん

外の会議がいっぱいあって昼間に行かないといけないのは大変だけど、単P(学校毎の活動)のことは大変だとは思っていません。むしろ定例会を楽しみにしています。 YKさん



私は緑小しか知らないのわかりませんが、ある先生から「他校のPTAは会合でも雑談が一切ないけれど、緑小はお互いを〇〇ちゃんと呼び合って仲が良くって楽しそうですね」と言われたことがあります。 MOさん

母であり、妻であり、社会人でもある人たちが集まって、熱心に活動していることに驚きました。今年は昨年よりきれいな人が多いね。(笑) ※と、毎年言ってます。(ご本人談) MNさん

作っている側の大変さがわかり、配付されるプリント類によく目を通すようになりました。 KZさん

P.G.T.役員の方々は話好きで明るい人が多くて、見てのとおり結構濃い人が多い。(笑)人見知りの私には正直勇気が必要だったけど、何とかやれています。 SZさん



未来のP.G.T.役員さんへ一言

大変といえば大変かもしれないけど、それほどでもないです。学校の様子がわかるし、普段あまり関わりのない先生方とコミュニケーションを取ることができます。やって損はないです！ SHさん

サポートしてくれる方がまわりにいるので初めての人でも大丈夫！ KBさん

最初は絶対無理だと思ったけど、誰でもできます！仕事より楽しいです！ YKさん

重荷を背負ったというよりも、学校行事に参加することで年々減ってきていた子どもとの共通の話題が増えたり、自分の人生の中でお友だちが増えたりするという感覚があって、「楽しいですよ」ということをみんなに伝えたいです。 Tさん

誘いを受けた時には戸惑い、ほとんどの方が一度は断り、人によっては何度も固辞したというP.G.T.役員の方々が、「引き受けたからには自分もみんなも楽しく活動したい」という山川会長(あ、すいません覆面なのに実名を出しちゃいました)の言葉そのままに、明るく、楽しく、ポジティブに活動されていました。お互いをファーストネームで呼び合い、言いたいことを言い合える仲の良さが、緑小のP.G.T.活動全体を支える原動力となっているのだということを肌で感じる座談会となりました。

P.G.T.本部ってこんなところですよ。

- 定例会は月1回。どうしても都合がつかない時は欠席も大丈夫！
- 詳細なマニュアルや議事録があるので、初めての方でも安心！
- お友だち同士での参加もOK！

先生質問です！

一人の人間として、子どもと向き合う  
『この子』ではなく、『この人』

今回は、2年2組担任の神代裕之先生にインタビューをしました。横浜生まれで、野球と旅が大好きな神代先生の謎に迫ります。

先生になる前は何をされていたんですか？



20代前半で青年海外協力隊を目指しました。そのつながりて教師を目指すことになり、塾講師などをしながら通信制大学で教員免許を取りました。

どんな子ども時代でしたか？

小学校の時は勉強が好きで、野球少年でした。クラス対抗野球が一番楽しかったです。

先生になってよかったなと思うこと、あるいは大変だと思うことはありますか？

やっぱり子どもが成長した瞬間に立ち会えることです。伸びたなと思える時がうれしいです。大変なことは、台風などが来ると、子どもたちのことが心配で寝不足になることです。(笑)

子どもと接する時に大事にしていることは何ですか？

「この子」と思わないで、「この人」と思うようにしています。一人の人間として尊敬を大事にし、向き合っています。ダメなことはダメと言いますが、ほめ言葉が増えるように心がけてます。

大切にしている言葉は？

「礼儀・謙虚・感謝」

緑小に来て半年が経ちますが、子どもたちの印象は？

素直ですね。子どもらしい子ども。気持ちが良いです。

最後に子どもたちにメッセージをお願いします！

緑小はいろんな設備も整っているし、そのチャンスを生かして欲しい。めいっぱい勉強を楽しんでください。

炭水化物が大好きで、お米に目がないという神代先生。終始和やかな雰囲気でお答えいただきました。

子どもたちにとっても優しく接してくださる先生の人柄がにじみ出るインタビューでした。お忙しい中、ありがとうございました！



2年2組  
かみしろ ひろゆき  
神代裕之先生

新企画!! 大人110番

今号より新しい企画がスタートします！子どもたちが大人の悩みに答えてくれる！どんな悩みでも解決してくれる！“はず”の企画です！記念すべき第一回目の悩み事は…。

もしもし!! こちうら、みどりっ子相談室です!



Q. いい親になるにはどうしたらいいですか？

親は、毎日子どもを思ってアレコレ言ったりやったりしているけど、これって子どもに伝わっているのかな? ロクたえしたり、言うこと聞いてくれなかつたりするけど、これってやり方が良くないのかな? 子どもの理想の親ってどんななの? いい親ってどんななの?



A. まず、頭ごなしに怒るのは、やめてほしい。それをやらなかったらだいたいいい親だと思えます。

自分が先生に怒られたら済むようなことは、いちいち怒らない。怒る時は、まずこちの話をちゃんと最後まで聞いて、一緒にどうしていいかわかを考えてくれてアドバイスをしてくれたら嬉しい。大人だって欠点はあるわけだから自分の欠点を認めながら、例えば、夫婦でそれを補いあってくれたらいい親だっと思うし、完璧な人間じゃない方がいいと思う。ちなみに夫婦ケンカとかは、子どもはどうしていいかわからないから目の前でやらないでください。あとは面白い方がいいし、やっぱり美人の方がいいな。

自分が子どもになったと思って、叱ってよ…。



子どもたちから出てきた意見は、すごく新鮮で、思いもよらないものばかり。大人の私たちには、耳の痛い話しやなるほど〜と、うなるような意見など、改めて子どもたちの意見を耳を傾けることの大切さを教えてくれました。この企画、次号以降も続くといいな。

協力してくれた6人の皆さん(6年生:Rちゃん,Yちゃん,Sくん,Sくん,Rちゃん,Sちゃん)、本当にありがとうございました!

編集後記

夏休み後は運動会を始めイベントが多く、広報ボラもあっちに取材こっちに取材と楽しく駆け回っていました。とは言えすべてが順調という訳ではなく、取材日前後になると広報ボラのグループラインには「子どもが熱で…」 「どなたか行ける方いませんか?」「写真がない…」 「どうしよう? どう思う?」といった焦りコメントと、「私行けます!」「〇〇先生に聞いてみるね」「大丈夫。こうしたらどう?」などの安心コメントがたくさん飛び交います。いざという時に頼ったり頼られたり、そんな関係がまるで当たり前のように自然と続いている広報ボラは、私の中で、人情型ボラとして認定されています。(笑) さて、今年もあとわずかとなりました。来年も、人情型ボラ広報一同、皆さんに心地よい緑の風を送るべく頑張りますので、ご協力よろしくをお願いします。



内山



人見



吉竹



大西 大西パパ



福原



宅見



和田



持田



山田